



私達は「じゅうたく小町」です

住宅現場からのメッセージ

④

全国低層住宅
労務安全協議会 じゅうたく小町

キャリア班リーダー

所属／

積水ハウス㈱

つくば支店 建築課



菅野 麻里

こんにちは。今回コラム担当のじゅうたく小町部会、キャリア班リーダーの菅野です。私からは「女性が現場監督として働くこと」についてお話しします。

私は2006年に住宅の設計として入社しました。その当時は女性の技術者は社内外どちらを通して珍しい存在で、早く一人前になりたいと、がむしゃらに仕事をしてきた記憶があります。

その後、14年にさらに広い視野を持つようにとのことで、現場監督へ配置転換となりました。

そのころ、女性設計者の数は入社時に比べると増加・定着していましたが、現場監督となると社内にはほほえないという状況で、また初めに戻ったなと感じました。

上司や職人さん含めて現場サイドの関係者は女性の部下や監督を持ったことがない方がほとんどでしたので、最初は雑談をするにも何を話したら良いのか、現場に指示を出すにもどうすれば動いてくれるかと、全てが手探り状態でした。

そのような状態でしたので、最初は方々（ほうぼう）から「女性に現場監督が務まるのか」とよく言われました。

男性に比べると重い物は運べない、高い所には手が届かないので、物理的に私が一人のできる事は限られ、頼りなく見えたことと

だったのです。

現場監督に従事していると多くのドラマがあり、多くの人と向き合うこととなりますが、現場で起こる事全てはその後必ず自らのスキルアップにつながると感じています。少しでも興味がある方には男女関係なくぜひ現場監督にチャレンジしてもらいたいと思っています。

その中で今後の課題として感じている事は監督を含めた現場入職者数・定着率の向上です。

じゅうたく小町では、女性監督の定着を図るために必要な事は何かとアンケートをとったところ、ライフステージの変化に対応でき

建築現場の魅力を伝えたい

思います。

その分、分からない事、助けてほしい事などを臆せずはっきり伝え、相手の話をよく聞くということを特に意識してきました。

最近では、職人さんから趣味の話や家族の話が自然に話してくれるようになり、多くのお客さまからも喜びのお話をいただくようになったので、社内外ともに監督として受け入れてもらえるようになったなと感じています。

つまり、現場監督として必要だったのは、男性であるということも、力持ちであるということも必要ではなかったのです。

もちろん力があるのに越したことはないのですが、それだけではなく、人対人のコミュニケーションを大事にすることが一番重要



大学生と女性現場監督との対談風景

るかという女性ならではの問題だけではなく、男女共に長時間労働になりがちな環境に対して多くの悩みを抱えていることが分かっています。

じゅうたく小町を通して建築現場の環境改善に少しでもつながるように提言づくりや、学生さんたちへ建築現場の魅力を伝えるなどの活動を引き続き行っていきたくと思っています。



タイムスク

次は埼玉県在住の副部会長、
山下絵里子さんです。お楽しみに！

全国低層住宅労務安全協議会

じゅうたく小町

ホームページ

www.j-komachi.com/

